

## 第2学年 生活科学学習指導案

### 1 単元名 「生きもの大すき」

### 2 単元目標

#### <生活への関心・意欲・態度>

自分の生活の場にいる虫などの小さな生き物に関心を持ち、進んで探したり、育てたりしようとする。

生命の大切さに気付き、生き物を長く育てられるようにかかわろうとする。

#### <活動や体験についての思考・表現>

生き物の採集の仕方や育て方を調べ、工夫して飼育することができる。

生き物の特徴や様子をとりえて、絵や言葉で表すことができる。

#### <身近な環境や自分自身への気付き>

生き物の育つ場所、様子、特徴に気付くことができる。

生き物とかかわって活動できた自分の成長や、友達の活動のよさに気付くことができる。

身近な環境と、自分とのかかわり方について気付くことができる。

### 3 指導観

#### こんな子どもだから

本学級の子どもたちは、これまでに、「ヤゴ救出大作戦」で、プールにいるヤゴをとったり、羽化するまで育てたりしている。ヤゴとりの時には、多くの子が虫網やカップを持参していて、虫とりへの意欲が見られた。そして、ヤゴが羽化してトンボになることに驚きを感じ、高い関心を持ってその様子を観察していた。また、子どもたちは、自然への興味・関心が高く、公園や校庭で採取した草花でおし花をしたり、飾りを作ったりしている。また、休み時間には、校庭で虫とりをする姿も見られた。

しかし、飼育技能については、えさの与え方がわからずにヤゴを死なせてしまったり、校庭でつかまえたダンゴムシに水分を十分に与えず弱らせてしまったりするなど、一つの生きものに心を寄せて長い間かかわることができなかった。

そこで、もっと長く生き物にかかわる活動を設定し、生き物の住みかや特徴などを知り、工夫して飼育できるようにしていきたい。また、活動を通して自分と生き物とのかかわりを深めていく中で、生き物の面白さや不思議さを感じ取らせ、命の大切さにも気付かせていきたい。

#### こんな活動を

本単元は、校庭や公園の生き物に目を向けている子どもたちの興味・関心を生かして、「生きものさがし」を行い、自分の好きな生き物を飼育することで、生き物の育つ場所や様子、特徴などに気付きながら生き物とより深くかかわっていくことをねらいとしている。

そこで、本単元に入る前に、通学路や近くの遊び場で見つけた生き物を、「はっけんわくわくタイム」で紹介し合ったり、教師が育てていた虫を見せたりすることで、自分も探しに行きたいという思いを持たせる。その思いをもとに、本単元では、「生きものをさがしに行こう」の活動を行う。そして、その活動で得られた気付きをもとに、どんな虫がどんなところにいるか、どんな方法でつかまえるかなどの視点で話し合いを行う。その話し合いをもとに、自分がかまえたい生き物を採集しに行ったり、飼育したりする活動を行っていく。

飼育に当たっては、採集活動で得られた生き物の様子やその生き物が育つ場所への気付きをもとに、「生きものを上手にそだてよう」の活動を行う。その中で、自分なりの飼育の工夫や、困っていることの解決法を試す活動を取り入れる。また、自分で調べた飼育の方法を試すことを通して得られた、さらなる飼育の方法への気付きを交流する場を設定し、生き物とのかかわり方を深めていく。

最後に、活動を通して得られた気付きや実感を、「自分の生きものじまんをしよう」の場面で交流し、生き物によって特徴や住みかなどの違いがあることや自分や友達の活動のよさにも気付くことができるようにする。



このような指導で

- (1) 自然事象に直接かかわり、その面白さや不思議さを実感することができる活動の工夫  
子どもたちが、発見や驚き・感動を実感でき、活動への思いや願いが生まれるような事象に出会うことができるようにする。そのために、身近にいる生き物を題材にし、自分たちで生き物を探したり、生き物を育てたりする活動を行っていく。この活動のよさは、以下のことが考えられる。
- ・はっけんわくわくタイムで、生き物がいそうな場所を発表させ、生き物マップを作っておくことで、自分の探したい生き物を見つけることができる。
  - ・生き物をつかまえるために、探す場所やつかまえ方などを考えさせることができる。
  - ・探してきたものを育てるときに、その生き物が住んでいるところを参考にして住みかをつくることのできる。
  - ・育てる時、一人ひとりの子どもがその生き物が好む環境を調べるための方法を考えることができる。
  - ・どのようにすれば生き物を上手に育てられるか工夫したり、自分の活動と友達の活動を比べたりすることができる。
  - ・飼育を通じて、それらが生命を持っていることや成長していることに気付き、発見や驚き・感動を実感したり、生き物を大切にすることを身につけたりすることができる。

(2) 科学の目と手の観点で、子どもの気付きを見取り価値付ける方法

<本單元における気付きの価値付けの観点>

- ・生き物の様子や特徴への気付き（多様性、色や形状の面白さ、構造や動きの巧みさ・不思議さ生態、命を繋ぐための仕組みなど）
- ・自分のかかわり方への気付き（探し方、採集の仕方、飼育の仕方、持ち方など）
- ・生き物とかわる活動の工夫への気付き（生き物の特徴を生かした活動の工夫、試しの活動）
- ・自分や友達の活動のよさへの気付き（活動の工夫、友達とのかかわり方など）

<本單元における科学の目と手を用いて活動を進める子どもの具体的な姿>

五感を使ってありのままに感じる目

- ・公園にはたくさんの虫がいるね。
- ・コオロギの鳴き声が聞こえてきたよ。
- ・カマキリは大きなかまをもっていてとても強そうだね。

比べてみる目

- ・ダンゴムシは日陰でじめじめした土のところにいるけれど、バッタは草むらにいるよ。
- ・バッタは草を食べるけど、カマキリは動いている生き物を食べるんだね。
- ・虫によって、住んでいる場所も食べる物も違うんだね。

関係付ける目

- ・バッタは狙われたときに逃げるために、高く飛ぶことができるのかな。
- ・古くなったえさを新しいものにかえたら、おいしそうに食べるようになったよ。
- ・虫をとってきたところと同じような住みかにしたら、元気になったよ。

試してみる手

- ・友達がつかまえた方法をまねして、今度虫をとろう。
- ・もっと上手に育てられるように、本で調べたり、虫に詳しい人に聞いたりしてみよう。
- ・友達のバッタは、霧吹きで水をやってると元気になっているな。まねしてみよう。
- ・ぼくの虫の自慢を発表するとき、友達に分かりやすいようにペープサートでやってみよう。
- ・五感カードの掲示により、五感を駆使することやどの感覚を使ったのかを自覚できるようにする。
- ・子どもの気付きを表出させ、価値付けるための対話やコメントによる支援を行う。
- ・子どもの活動の様子や作成物がどのように変わったかをよく観察したり、子どもの言語表現にみられる擬音・擬態語や比喩表現などに着目したりすることで、子どもの言葉や行動の裏に隠された気付きを見取る。
- ・科学の目と手にかかわる気付きを価値付けるためのカードや気付きの足跡が見える環境の工夫を行う。

### (3) 子どもが主体的に活動を行い、気付きの質を高めていく単元構成と場の工夫

子どもが活動への思いや願いを持って、気付きを深めるための場の工夫を行う。子どもが活動への思いや願いを持ち、活動を通して得られた気付きを交流することで、気付きを生かしてさらに、活動を深め広げていくことができるように、次のように単元構成を行う。

#### 自然事象と出会う活動や体験「やってみよう！」

##### <自然事象のおもしろさや不思議さを実感する活動や体験>

ねらい	生き物を探したり、触れ合ったりすることを楽しむことができるようにするとともに、生き物をつかまえらえそうな場所やつかまえる方法を考えたり、気付いたりすることができるようにする。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・教師が育てていた生き物を紹介し、生き物を探したいという思いを持たせる。</li><li>・生き物が見つかりそうな場所やたくさんいそうな場所を出させ、探すときの見通しを持たせる。</li><li>・子どもたちが安全で自由な活動ができ、生き物をつかまえた喜びを味わうことができるような場所を選定しておく。</li><li>・このあたりにこんな生き物がいるはずだという見当をつけて生き物探しをさせる。</li><li>・各自が住みかや食べ物を工夫できるように、ひとり一つ、飼育ケースを用意する。</li><li>・友達から聞いた生き物の居場所やとり方などを参考にしながら、2度目の生き物探しをさせる。</li></ul>

#### 交流活動1「みつけたよ！」

##### <気付きを比べたり関係付けたりして、次の活動へ学びをつなげる交流活動>

ねらい	生き物はそれぞれ生活する場所(好む環境)や生活する様子が違うことに気付くことができるようにする。 つかまえたときの気付きを生かして、みんなで上手に育てていこうという願いを持たせる。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・「どんなところで見つけたか」「どうしたらつかまえられたか」の視点で交流させ、自分や友達の活動のよさに気付くことができるようにする。</li><li>・友達のどの意見を参考にしたか、また、1度目の生き物探しと2度目の生き物探しとで違った点や自分が考えた点・工夫したことなどを発表させる。</li><li>・自分のつかまえた生き物を友達に見せながら発表させる。</li><li>・ふり返しカードを書かせ、自分の気付きや工夫を表出できるようにする。</li></ul>

#### 気付きを生かして活動を広げ、深める「もっと、やってみよう！」

##### <気付きを自分の活動に生かしたり、試したり、試行錯誤したりする活動>



ねらい	生き物の上手な育て方を考え、本で調べたり人に聞いたりしながら、育てる環境を工夫し大切に育てることができる。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の飼育ケースを準備し、一人ひとり育てることができるようにする。</li><li>・同じ生き物ごとにグループを作り、困ったことを相談したり、教え合ったりしながら飼育できるようにする。</li><li>・生き物の飼い方・育て方の本や資料を生き物コーナーに準備し、いつでも活用できるようにする。</li><li>・ふり返しカードを書かせ、自分の工夫や気付きを表出できるようにする。</li><li>・「上手な飼い方・育て方」の視点で交流させて、自分や友達の工夫を比べたり、友達の気付きを自分の活動に生かしたりできるようにする。</li><li>・今までの活動や気付きをふり返ることができるように写真やカードを掲示しておく。</li></ul>

#### 交流活動2「わかったよ！」

##### <互いの気付きや学びのよさを価値付け合い、学びを確かにする交流活動>

ねらい	互いの育て方や工夫のよさを価値付け合うことで、自分や友達の活動のよさに気付くことができるようにする。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・生き物じまん発表会を設定し、自分たちの育て方のよさを実感できるようにする。</li><li>・ワークショップ形式で交流活動を行い、それぞれの自慢を伝え合うことができるようにする。</li><li>・自分たちの生き物の飼い方・育て方のよさなどを、相手に上手に伝えることができるように、言葉や絵・劇化など表現方法の支援を行う。</li><li>・質問や意見などの交換をさせながら、互いの気付きを深めていくことができるようにする。</li><li>・ふり返しカードに、自分や友達のよさを書くことで、自己評価や相互評価ができるようにする。</li></ul>

4 指導計画 (全13時間) ……科学の目と手につながる支援

過程	活動のねらい	子どもの活動の姿			
つかむ	<p>生き物や生き物のいるところに興味を持ち、探しに行きたいという願いを持つ。</p>	<p><b>生きものをさがしに行こう</b> <span style="float:right">2時間</span></p> <p>・生き物を探しに公園へ行く。 (やってみよう!)</p>			
	<p>生き物が住んでいる所や生き物の動きの特徴に気付き、生き物を探したり、とつたりすることができる。</p> <p>自分がつかまえた生き物がかつてみたいという思いを持ち、その生き物が住んでいたところに気付くことができる。</p>	<p>虫をつかまえられるように、虫網を持って行こう。</p>	<p>公園にはきつとたくさん生きものがあるよ。</p>	<p>草が多いところを探して、バッタをつかまいたいな。</p>	<p>虫をかつて、育ててみたいな。</p>
ふかめる	<p>自分の生き物を長く育てたいという思いを持ち、工夫して育てようとする。</p>	<p><b>生きものをじょうずにそだてよう</b> <span style="float:right">4時間</span></p> <p>・自分がつかまえた生き物を育てる。</p>			
	<p>生き物を長く育てるには、その生き物に合った住みかや食べ物が必要な事に気付くことができる。</p>	<p>バッタの持ち方がわかったよ。</p>	<p>住みやすいように草や木の枝を入れてみよう。</p>	<p>バッタは葉っぱを食べているんだよ。</p>	<p>さんは、石を入れているけど、どうしてかな。</p>
ひろげる	<p>伝えたいことを考え、それに合った伝え方を選んで、表わすことができる。</p>	<p><b>自分の生きものじまんをしよう!</b> <span style="float:right">3時間</span></p> <p>・これまでの活動で工夫したことやわかったこと、自分の生き物のすごいところなどをまとめる。</p>			
	<p>自分と友達の活動のよさに気付くことができる。生き物への愛着を持つことができる。</p>	 <p>カマキリのかまのすごさを、画用紙で大きく作って説明しよう。</p>	<p>私のバッタのジャンプのすごさを、みんなにみてもらいたいな。</p>	<p>工夫して作った住みかをみんなに紹介しよう。</p>	<p>さんは、カマキリがえさを食べる様子を、画用紙で作ったかまを動かして上手に表わしていたね。</p>
		<p>・生き物じまんをする。 <span style="float:right">本時12 / 13 (わかったよ!)</span></p>			
		<p>上手に育てられたからうれしいな。今度はちがう生き物を育ててみたいな。</p>	<p>虫によって食べるものや住みかがちがうんだね。</p>	<p>虫の体って、いろいろあってすごいな。足の形だっている違うっていたよ。</p>	<p>さんは、カマキリがえさを食べる様子を、画用紙で作ったかまを動かして上手に表わしていたね。</p>
		<p style="text-align:center">  </p> <p style="text-align:center">生きものをつかまえたり育てたりすると楽しいね。これからも、やってみよう。</p>			

指導と支援	評価と見取りの方法
<p>教師が、育てていた生き物を見せることで、自分も見つきたいという興味をもたせる。</p> <p>公園探索や、「はっけんわくわくタイム」での子どもたちの発表の内容をマップやカードに表わしたり、生き物の本を準備しておいたりして、どんな場所にどんな生き物がいるか想起したり、予想することができるようにする。</p> <p>子どもたちが「こんな生き物が、どここのどんなところにいる」と予想したことを基にして、生き物を探す場所を選定しておく。</p> <p>活動の様子を見取れるように、生き物探しのふり返しカードを準備しておく。</p> <p>生き物探しで得られた気づきを、どんな生き物がどんなところにいたか、どうやってつかまえたかの視点で交流させる。</p> <p>交流した気づきを、生き物コーナーに掲示しておく。</p> <p>子どもの思いにそって生き物が育てられるように生き物コーナーを設定する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 生き物や生き物のいるところに興味を持ち、探しに行きたいという願いを持つことができる。 (行動観察・発言)</p> <p>【思考・表現】 生き物が住んでいるところや生き物の動きの特徴に気づき、生き物を探す場所やつかまえ方を考えることができる。 (発言・カード)</p> <p>【気づき】 生き物の種類によって住みかやつかまえ方が違うことに気付くことができる。 (発言・カード)</p>
<p>今までの活動や気づきをふり返ることができるように、写真やカードを掲示しておく。</p> <p>同じ生き物を育てている子どもどうしでグループを作り、互いに相談したり、教え合ったりしながら活動できるようにする。</p> <p>生き物コーナーに生き物の飼い方や育て方の本や資料を準備し、活用しながら育てることができるようにする。</p> <p>虫博士を紹介し、分からないことや困ったことなど聞くことができるようにする。</p> <p>「上手な飼い方・育て方」の視点で交流させ、自分や友達の工夫を比べたり、友達の気づきを自分の活動に生かしたりできるようにする。</p> <p>ふり返しカードを書かせ、自分や友達の工夫や気づきを表出できるようにする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 友達の話や本で調べたことなどを参考に、進んで生き物の世話をすることができる。 (行動観察・発言)</p> <p>【思考・表現】 生き物の特徴や様子に合わせた飼い方を工夫することができる。 (行動観察・発言・カード)</p> <p>【気づき】 生き物を長く育てるためには、その生き物に合った食べ物が必要なことに気付くことができる。 (発言・カード)</p>
<p>「生きものじまん発表会」の活動を通して、自分たちの育て方のよさや工夫を実感できるようにする。</p> <p>ワークショップ形式で交流活動を行い、友達の活動のよさや工夫も知ることができるようにする。</p> <p>自分たちの生き物の飼い方・育て方のよさなどを友達に上手に伝えることができるように、言葉や絵・劇化などの表現方法の支援を行う。</p> <p>教師は、子どもの気づきを価値付け、賞賛する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の活動のよさや気づきのよさ</li> <li>・友達とのかかわりのよさ</li> <li>・生活とつないだ見方・考え方</li> </ul> <p>ふり返しカードに、自分や友達のよさを書くことで、自己評価や相互評価ができるようにする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 友達の飼い方や育てている生き物についての発表に関心を持って聞くことができる。 (行動観察・発言)</p> <p>【思考・表現】 自分の生き物のよさや飼い方の工夫を、相手にわかりやすいように表すことができる。 (行動観察・発言)</p> <p>【気づき】 友達や自分の活動のよさに気付くことができる。 (発言・カード)</p>

## 第2学年 本時学習指導案

5 本 時 第12 / 13時

6 本時の目標

<身近な環境や自分自身への気付き>

「生きものじまん発表会」を通し、自分の成長や自分や友達の活動のよさに気付くことができる。

7 本時指導の考え方

本単元の前時までには、子どもたちは、教師が育てていた生き物を紹介したり、「はっけんわくわくタイム」で生き物を探した経験を交流したりすることによって、自分でも探したいという思いや願いを持って1回目の生き物探しに行った。その活動で、生き物の種類によって、体や動きの特徴や住んでいる場所が違うことに気付いた。その気付きを生かし、生き物の住んでいる場所を確認したり、つかまえ方を考えたりするなどして、「このあたりにこんな生きものがあるはずだ」と見当をつけて2回目の生き物探しに行った。

次に、つかまえた生き物を育ててみたいという子どもの思いを受け、生き物探しの時に得られた生き物の様子や住みかの気付きを基に、生き物を上手に育てる活動を行った。その中で、困っていることや自分なりの飼育の工夫を交流できるように、同じ種類の生き物を育てている子どもどうしでグループを作った。グループ活動の中で、友達と相談したり、本やインターネットで調べたり、「上手な飼い方・育て方」を追究する活動を取り入れ、実際に自分で調べた育て方の工夫を自分が飼っている生き物に試した。そこで、気付いたことや分かったことを友達に伝えたいという子どもの思いから、「生きものじまん発表会」を設定した。そして、発表会で子どもたちが伝えたいことを「自分の育て方自慢」と「育てている生き物自慢」の2つの視点に分け、各グループで交流し、自分たちなりの表現方法で発表できるように準備してきている。

そこで、本時では、「自分の育て方自慢」の視点で発表するグループが、自分で調べた飼育の方法を試すことを通して得られた気付きを友達に伝える活動を行う。その活動によって、自分の成長や自分や友達の活動のよさに気付くことができるようにする。まず、前時までを振り返らせた後、めあてを確認し、発表会の活動を通して「上手な飼い方・育て方」という視点で交流していくことを意識させる。発表する際には、ワークショップ形式で行い、育てている生き物の住みかや餌を食べている様子の写真などを掲示しながら、間近で説明することによって自分たちの育て方の工夫が友達に伝わるようにする。また、前時までの活動の様子やカードから見取ったことをもとに、本時の支援計画を立て、子どもたちの生き物の育て方の工夫や子どもの気付きを科学の目と手の視点で価値付ける問いかけや言葉かけを行う。最後に、本時の学習についての気付きや感想をふり返りカードに書かせてから発表させ、生き物によって住む場所や食べ物が違うこと、飼育するためには毎日世話をすることが大切なことを、子どもの発表から気付きを確かなものとしてとらえさせる。また、自分の成長や自分や友達のよさを実感できるようにする。

8 準 備

教師・・・支援計画表、前時までの活動の様子を撮った写真、ふり返りカード、発表ボード  
児童・・・自分が飼育している虫かご、今までのふり返りカード、看板、筆記用具

9 本時の展開 (12 / 13)

学 習 活 動 と 子 ど も の 姿

1 前時までの学習をふり返り、本時のめあてを確認する。

(1) 前時までの学習をふり返る。

さんが虫をとってきた場所と同じような住みかにしたら元気に育つと言っていたから、僕もやってみたよ。

上手に生き物を育てるために、本やインターネットで調べたり、虫博士のおじいちゃんに聞いたりしてみたよ。

同じグループの友達と相談して、友達に伝えたいことをまとめたね。他のグループの友達はどんな工夫をしたのかな。



調べたことを試して、育て方をかえたら、虫が元気になったからうれしかったよ。

(2) 本時のめあてを確認する。

「生きものじまん発表会」をして、上手にそだてるために工夫しているところを友だちに伝えよう。

2 育て方の工夫について発表する。

バッタのお家に、土を入れて、その上に緑色の生き生きした細長い葉っぱを入れたら元気になったよ。

カマキリは、動いていないものをあげても食べなかったけど、動いている生き物だと食べたよ。

コオロギにあげていた餌が腐りかけてたので、新しい餌に変えたらおいしそうに食べていたよ。



ダンゴムシの住みかをじめじめしたところに変えてみたらよろこんでいたよ。

3 本時の学習をふり返り、気付いたことを発表する。

友達の発表を聞いて、生き物によって、住みやすい場所も好きな食べ物も違うことが分かったよ。

毎日虫を飼うためには、毎日元気かどうか観察して、餌をあげたり、住みやすいところにしたり、一生懸命世話してあげなくちゃね。

友達に「育て方が上手だね」って、褒められたからうれしかったよ。



これからも飼っている生き物が長生きできるように、一生懸命育てていきたいな。

指 導 と 支 援	評価と見取りの方法
<p>事前の準備の時間に、各グループの「上手な育て方・飼い方」をふり返る活動を行い、「      していたら失敗したので、      にかえたら成功した」というように育て方で工夫したことを書かせておくことで、自分たちの育て方のよさを明確にしておく。</p> <p>今までに得た気づきを「生き物コーナー」に掲示し、ワークショップの際、ヒントになるようにする。</p> <p>本時のめあてを確認することで、発表会の活動を通して何を交流するのかを明確にする。</p> <p>ワークショップ形式で交流する場を設定することで、自分や友達の「上手な育て方・飼い方」のよさについて、実感をともなった気づきができるようにする。</p> <p>発表する時、育てている生き物の住みかや餌を食べている様子の写真などを掲示しながら、間近で説明することによって自分たちの育て方の工夫が友達に伝わるようにする。</p> <p>前時までの活動の様子やカードから見取ったことを基に、本時の支援計画を立て、子どもたちの生き物の育て方の工夫や子どもの気づきを科学の目と手の視点で価値付ける問いかけや言葉かけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の生きものグループの友達と比べることで、生きものによって住む場所と食べ物が違うことが分かったんだね。</li> <li>・餌だけでなく、住む場所によっても虫の様子もかわることによく気付いたね。</li> <li>・育て方をかえることによって、生き物の様子はどのようにかわりましたか？</li> <li>・      さんのカマキリは、毎日観察して世話をしてあげていたから、元気に育っているんだね。</li> </ul> <p>ふり返りカードに書かせ、本時の学習についての気づきや感想を発表させる。</p> <p>生き物によって住む場所や食べ物が違うこと、飼育するためには毎日世話をすることが大切なことを子どもの発表から気づきを確かなものとしてとらえさせる。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【気づき】</b></p> <p>「生きものじまん発表会」を通し、自分の成長や自分や友達の活動のよさに気付くことができる。 (発言・カード・つぶやき)</p>